

双子の兄は

東部中・2 山口 真銘

私の双子の兄は繊細で優しい
すぐ人を気遣う心
誰でも平等に接する心
私はそんな双子の兄の一面を
誰よりも知っている

私が母とけんかしていたら
静かに見守り
のちに母に告げた

「あいつにも考えがあると思うから
強く言わないであげてほしい。」

お風呂に入ったふりして
聞いていた言葉

普段母に歯向かわない

双子の兄が言っていた言葉
いまだに心に残るあの言葉

友達と仲たがいをして帰ってきた兄
悔しいのか悲しいのか

理由が分からない涙で帰ってきた
母がどうしたのと聞くとゆっくり話し出す
きっかけは小さなことだったらしい
母は双子の兄を気にするとなだめる
兄は「うん。」と言うけれど

私は知っている
本当はその言葉をすごく気にしていることを

私は誇らしく思う
優しい双子の兄がいるということ

双子の兄とふざけて遊んでいるとき
盛り上がって兄が力強く肩をたたいた
双子の兄はふざけながら謝る
私は知っている

「ごめん。」という言葉の中に
冗談じゃない優しい心が交じっていることを

母の帰りが遅くなった日

私は料理をつくることになった

双子の兄は

「なにか手伝えることある？」

と聞いてきた

決まって私は「なにもない。」と言う

「ふーん。」と言って

部屋に戻る兄

私は感謝している

料理をつくることは

難しくて大変なんだということ

理解してくれているということがわかるから

私は双子の兄のことが大好きである

だから学校から帰って話すことが楽しみだ

私は双子の兄を羨ましく思う

私も優しい素質が欲しいから

私は双子の兄の友達を妬む

きつと私の知らない一面を知っている